

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	学外実習	
科目基礎情報						
科目番号	0091		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	4		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材						
担当教員	浅尾 晃通					
到達目標						
1. 企業等における技術者の実務を理解できる。 2. 企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。 3. 企業における社会的責任を理解できる。 4. 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。 5. 実際の企業人との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
企業における技術者の実務を理解し、実習を行う事ができる。	企業における技術者の実務を理解し、実習を行う事ができる。	企業における技術者の実務を理解することができる。	企業における技術者の実務を理解することができない。			
コミュニケーション能力の必要生を理解し、自己啓発することができる。	コミュニケーション能力の必要生を理解し、自己啓発することができる。	コミュニケーション能力の必要生を理解できる。	コミュニケーション能力の必要生を理解できない。			
実習した内容をよく理解し、プレゼンテーションによって説明できる。	実習した内容をよく理解し、プレゼンテーションによって説明できる。	実習した内容をよく理解できる。	実習した内容を理解できない。			
学科の到達目標項目との関係						
準学士課程の教育目標 D① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。 準学士課程の教育目標 E② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。 準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。 準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SD① 専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、応用できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SD② 専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SE② 実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SF② 工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SF③ 技術者としての役割と責任(倫理観)を認識し、説明できる。 専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SG① メンバーとして、自己のなすべき行動を判断し実行できる。						
教育方法等						
概要	企業・公的機関・大学などにおいて短期間の現場実習を体験することで、設計・生産・開発の技術、試験・研究・保守管理などについて実践的に学び、実社会の厳しさを知るとともに、社会人(技術者)として必要な人間性(責任感・協調性・倫理観など)の形成を目指す。また、学外実習を通して、勉学の意味と目標ならびに学生生活の意義を再認識することで、将来の進路選択に役立てる。					
授業の進め方・方法	第4学年時の夏季休業期間を利用して、企業・公的機関・大学などの実習受入れ先で、1~2週間(実30時間以上)の実習を行う。実習内容は、実習受入れ先で計画されたカリキュラムに従って行われる。 ①実習受入れ先の選定、事務手続き、学校提出の実習報告書の作成など全般については、学級担任ならびに学生課教務係の指導を受け、最後まで自覚と責任を持って対応すること。 ②事前に、「学外実習届」を学校へ提出すること。 ③実習に必要な経費は原則自己負担であること、実習受入れ先によっては申込み時に書類選考があることに注意すること。 ④実習に当たっては、実習受入れ先の規律・規則・指導に従い、実習には積極的に取り組み・コミュニケーションに努めるとともに、実習時間外であっても期間中は常に責任ある行動を心がけること。					
注意点	実習受入れ先の選定、事務手続き、学校提出の実習報告書の作成など全般については、学級担任ならびに学生課キャリア支援室の指導を受け、最後まで自覚と責任を持って対応すること。 事前に学外実習届を学校へ提出し、インターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	実習受入れ先の選定と事務手続き(4月~7月)	学級担任(学生課教務係)から連絡される「実習受入れ先一覧」から実習希望先を選定する。学級担任を経由して、実習受入れ先へ「じっしゅ			
	2週	実習受入れ先での実習(夏季休業期間中)	学級担任が行う「学外実習の諸注意および連絡」を遵守の上、実習受入れ先の指導に従い、1~2週間の実務実習を行う。			
	3週	学外実習報告書の提出(9月)	実習学生は、学級担任が指示する「実習報告書への記載事項」を遵守し、実習終了後速やかに実習に関する「学外実習報告書」を仕上げ、必ず指定された期日までに学級担任へ提出する。			
	4週	実習受入れ先からの報告(9月~10月)	実習受入れ先からの報告(9月~10月)			
	5週					
	6週					
	7週					
	8週					
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				

後期	3rdQ	15週		
		16週		
		1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
	4thQ	7週		
		8週		
		9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
15週				
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	専門的能力の美質化	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	3	
			企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	3	
			企業における社会的責任を理解できる。	3	
			企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	4	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	4	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	4	
			コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	4	
			実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	4	
			社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	4	
	実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	4			
	共同教育	共同教育	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	4	
			地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	4	
			問題解決のために、最適なチームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる。	4	
技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。			4		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	4	
			相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	4	
			集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	4	
			目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	4	
			ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	4	
			ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	4	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	4	

			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	4		
			事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	4		
			複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	4		
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	4		
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	4		
			日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	4		
			ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	4		
			学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	4		
			市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	4		
			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	4		
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	4		
			先につけて行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	4		
			目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	4		
			法令を理解し遵守する。基本的な人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	4		
			法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	4		
			未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会的な在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	4		
技術の発展と持続的社会的な在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができる。同時に、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	4					
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	4		
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4		
			クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。	4		
			クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しデザインすることができる。	4		

評価割合

	実習先からの評価	実習報告書	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	70	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	70	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0